

学校司書としての教育支援（書誌データの構築と多様なテーマのブックリストをWEBで公開）

大阪府 帝塚山学院中学校・高等学校

基本データ

所在地	大阪市住吉区帝塚山中 3-10-51
児童生徒数	1,490人
教職員数	87人
蔵書数	71,959冊
年間貸出冊数	14,492冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】読書啓発・指導

【活動のねらい】

- 書誌データにおいて件名や目次を充実させることによって、目次などにある検索語を入力して該当する本があればヒットするようになっている。キーワードだけで網羅的に本を選定することができるので生徒は卒業レポート作成時のテーマ選びにも資料として自分で本を探し得ることができるので自学自習の支援となる。
- また、ブックリストを参考にした資料の活用や、ブックリストのWEB公開によって、本校だけでなく学外においても読書活動を推進するための取り組みの一助となる。

取組・活動の概要

【書誌データ構築による調べ学習等の支援】

- 学校司書の立場での教育支援として本校図書館所蔵の書誌データの構築をすることで生徒の自学自習の支援をしている。
- 本のタイトルや著者名は他の図書館でも検索することができるが、それに加え、WEB蔵書検索のフリーワードにおいて件名だけでなく、目次検索もできるのが特徴である。
- この取組は2008年から現在に至って継続的に行っている。
- 目次情報から本の構成要素がわかり、調べ学習や本の選定に役立つ。例えば、『学校図書館の可能性：自ら考え、判断できる子どもを育てる』渡邊重夫著（全国学校図書館協議会）という本の場合、フリーワードで「アクティブラーニング」と検索語を入力すると目次にあるのでこの本も関連本として探すことができる。
- 基本、図書館は分類体系（NDC）に基づいて本を配架しているが、違う観点からも網羅的に本を探すことができる。

【入試等対策に関する支援】

- 小論文のテーマになるような本をキーワードとなる検索語から選定することができるので、「大学学部・系統別小論文対策」としてのブックリストを紹介できる。

- 他に、フリーワードで入試問題出典と検索語を入力すると一部の国立難関大学や有名私立大学が中心だが、入試問題として引用された本として紹介することもできる。

【多様なテーマのブックリストの作成】

- 図書館で受け入れた本の整理をする際に書誌の追加データ構築をしているので学内向けには内容紹介文もつけて多様なテーマのブックリストを作成している。
- 毎月、テーマごとに展示し、図書館ホームページでも公開している。本校だけでなく学外からもブックリストを参考にしてほしいとの連絡もある。
- 毎年、教科と連携で参考となる課題図書選びをし、ブックリストを作成して展示し、教員と生徒の教育支援を行っている。



テーマごとのブックリストの展示

- 中学1・2・3年、高校1・2・3年を対象に総合的な学習の時間（総合学習・創発講座）として、週のうち月曜日（3・4・5・6限目）・水曜日（1・2・3・4限目）・土曜日（3・4限目）に授業があり、中学生13テーマ、高校生25テーマの課題があり、図書館を利活用する際、学校司書として資料の情報提供をしている。

2018年度年間図書館利用での授業数:245件

取組・活動の工夫や特徴

- 本を受入して整理する段階で、件名にキーワードの追加や小説ならどんな本であるかを確認しながら必要と思われる書誌データを追加する。
- また、入試問題出典の本は、ネットで一部の国立難関大学や有名私立大学の過去問データベースなど調査して所蔵している本に「〇〇大学入試問題出典」と書誌データを追加する（高校入試問題出典・中学入試問題出典も同様）。
- 小論文対策としてのキーワードは、『螢雪時代特別編集受験対策全国大学小論文入試』を参考にしている。
- 教科との連携で課題図書選びをする際、新年度に入ってから調査すると1学期に間に合わないことがあるので、年度末に次年度の授業実施要綱（シラバス）の原稿を参考に所蔵調査をし、資料が少ない場合は、選書して発注し新年度に備える。



教科との連携で発注された課題図書

取組・活動の成果や今後の展望

- 今までは分類ごとにある本を書架上で本の背表紙を眺めて、気になる本があれば取り出して読むというブラウジングをして本を探すこと

や学校司書に問い合わせをすることが多かったが、館内のOPACやWEB蔵書検索により24時間いつでも、自宅からも検索が可能なので事前に自分で調査して図書館にある本をすぐ探すことができる傾向となった。

- また、毎月、新着図書やテーマ別おすすめ本のブックリストに内容紹介文をつけて作成し、展示を行っているので読書量も増えている。
- また、課題に沿って資料紹介もしているのですぐに資料として役立つ。
- 今後、継続して書誌データ構築していく。